

「弘前大学アートワールドひろさきキュアプログラム」受講科目について

学期及び授業時間等

- ・前期 4月1日～9月30日（令和7年度授業期間：4月11日～8月6日）
- ・後期 10月1日～3月31日（令和7年度授業期間：10月1日～2月6日）
- ＊一部の授業において、8・9月、2・3月の期間に集中授業により行う授業もあります。
- ・授業時間

時 限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時 間	8:40 ～ 10:10	10:20 ～ 11:50	12:40 ～ 14:10	14:20 ～ 15:50	16:00 ～ 17:30

受講講義室

講義室は4月に改めてご案内します。なお、講義室は授業開始後、受講者数調整等の関係で変更になることがあります。教員の指示や、変更のお知らせ（掲示板等）にご注意ください。

パソコン・インターネット環境の準備

本学では、シラバスの閲覧、各種掲示板の確認、メディアを使用した授業の受講など、学習活動の様々な場面においてパソコンを使用します。そのため、本学ではノートパソコン等及びインターネット接続環境の確保を受講前に準備していただくことを推奨しています。

カリキュラム

カリキュラムの構成

A. 青森および弘前の芸術支援活動を概観し、「芸術」をめぐる基本的な概念と理論を理解する。

〔2科目（45時間）〕

B. 芸術作品を知り、その鑑賞のコツを身につける。〔2科目以上選択（45時間）〕

C. A及びBで学んだことを活かして、プロデュースの演習を行う。〔1科目（22.5時間）〕

D. A～Cを修得した上で、プロデュースの実習を行う。〔1科目（22.5時間）〕

＊C、Dは履修期間2年目に受講してください。

構成	授業科目の名称	時間数	必要時間数
A	くらし・文化 ―地域の芸術文化振興―	22.5	45
	思想 ―美学入門―	22.5	
B	歴史・地理 ―西洋美術史入門―	22.5	45
	芸術 ―音楽の技と心―ピアノ・詩・声楽―	22.5	
	地域の芸術・文学 ―日本美術史―	22.5	
	国際地域・社会・文化 ―美術史研究入門―	22.5	
	国際地域・社会・文化 ―音楽史研究入門―	22.5	
	国際地域・社会・文化 ―トランスナショナルリズムの音楽―	22.5	
	世界の芸術・文学 ―コンテンポラリーアート―	22.5	
	世界の芸術・文学 ―近現代の音楽文化史―	22.5	
	世界の芸術・文学 ―舞台芸術概論―	22.5	
C	地域の多様性と活性化 ―地域とアートワールド―	22.5	22.5
D	キャリアデザイン ―アート・インターンシップ―	22.5	22.5
	計	292.5	135

開講科目

各授業科目の開講学期、曜日時限、授業概要等は以下のとおりです。

なお、授業科目の詳しい内容は、4月1日以降の公開となりますので、別紙3（2024年度シラバス）により、授業の内容等を参考にしてください。（一部令和6年度に開講していない科目があります。）

4月に入りましたら、あらためて本学ホームページにて最新情報を確認してください。

シラバス（教養教育） <https://www.hirosaki-u.ac.jp/education/syllabus/>

授業科目名	くらし・文化－地域の芸術文化振興－
開講学期	前期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	朝山 奈津子（教育学部）、袴田 麻祐子（非常勤講師）、福田 裕美（非常勤講師）
必修／選択	必修
授業としての具体的到達目標	○青森と関わる芸術に関する見識を深めること ○芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること
授業の概要	○芸術をとりまく制度、地域の文化格差、文化権などの観点から、世界・全国と青森・弘前の現状を理解する。 ○地域の芸能や伝統文化の振興政策について理解する。
備考	

授業科目名	思想－美学入門－
開講学期	後期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	森 功次（非常勤講師）
必修／選択	必修
授業としての具体的到達目標	○思想、宗教、哲学、歴史、倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること ○美学、芸術哲学およびその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、日常社会への理解を深めること ○身の回りの文化的問題について議論できる力をつけること
授業の概要	○現代英語圏の美学（いわゆる分析美学）の基礎的な議論、概念について学習し、理解を深める。 ○美学の視点を用いて、身近な文化状況のありかたや現代の社会問題について考察する。
備考	

授業科目名	歴史・地理　－西洋美術史入門－
開講学期	前期
曜日時限	火曜日，5・6時限
担当教員（教員所属名）	出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	未定
授業の概要	未定
備考	

授業科目名	芸術　－音楽の技と心－ピアノ・詩・声楽－
開講学期	
曜日時限	
担当教員（教員所属名）	
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	令和7年度開講なし
授業の概要	
備考	

授業科目名	地域の芸術・文学　－日本美術史－
開講学期	後期
曜日時限	金曜日，7・8時限
担当教員（教員所属名）	出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○地域で生み出された多様な芸術・文学に触れることを通して，豊かな表現力を身につけること
授業の概要	○江戸時代までの日本美術史の流れを時系列的に概観します。 ○それぞれの時代の表現上の特徴を把握します。 ○個々の作品がうみだされた文化的背景や他国との関係について学びます。 ○津軽藩とかかわりのある美術品に注目し、日本美術史全体のなかに位置づけます。
備考	

授業科目名	国際地域・社会・文化　－美術史研究入門－
開講学期	後期
曜日時限	火曜日，9・10時限
担当教員（教員所属名）	出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	選択

授業としての具体的到達目標	○異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要	○美術史研究の方法論を理解する。 ○社会における美術やイメージの多様な役割について考察する。 ○聖母マリアからプリキユアまで：過去および現代の女性／少女表象をジェンダー視点で解釈する方法を身につける。
備考	

授業科目名	国際地域・社会・文化 ―音楽史研究入門―
開講学期	後期
曜日時限	木曜日，5・6時限
担当教員（教員所属名）	朝山 奈津子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要	○作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685-1750）の音楽活動と主要作品の概要を掴む。 ○音楽の研究方法・研究課題の概要を見渡し、「音楽学」、「音楽史」という学問分野の成立と目的を知る。
備考	

授業科目名	国際地域・社会・文化―トランスナショナルリズムの音楽―
開講学期	後期
曜日時限	月曜日，9・10時限
担当教員（教員所属名）	諏訪 淳一郎（国際連携本部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要	音楽を聴く（あるいは演奏・創作する）ことは、人間として存在することの重要な一条件である。 しかし、世界の音楽文化は多様であって、その背景には複雑な事情が存在している。この授業では、多元的な知性を育みながら世界の中の一地域で暮らすことの特殊性と、人間の音楽による営みの普遍性という二つの側面を有する音楽がもつ文化的な力について理解を深める。
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学―コンテンポラリーアート―
開講学期	後期
曜日時限	集中

担当教員（教員所属名）	三木 あき子（非常勤講師）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○現代アートについての学術的知識・理解を深める。 ○現代の様々な視覚表現に触れることにより、感性や想像力・創造力を高める。 ○現代アートを通して、世界や地域・社会の様々な課題に関心を持ち、自ら問い、考え、言葉にする力を養う。 ○将来のキャリアや生活形成、地域社会への貢献を想像することに繋がる。
授業の概要	弘前れんが倉庫美術館を含む国内外各地の美術館の立上げを担った専門家が、「歴史的流れと社会背景」、「現代アートの世界」、「アーティストたちの実践」、「アジアの現代アート」、「アートと地域」といった幅広い視点から現代アートへの理解を促します。アートに関する基本的知識を得るだけでなく、現代アートの多様な現場や鑑賞すること、さらには生活や地域におけるアートの可能性等について考えます。
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学－近現代の音楽文化史－
開講学期	前期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	沼野 雄司（非常勤講師）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	未定
授業の概要	未定
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学－舞台芸術概論－
開講学期	後期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	朝山 奈津子（教育学部）、舘 亜里沙（非常勤講師）、小塩 さとみ（非常勤講師）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して、高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要	○東西の舞台芸術（能、文楽、歌舞伎、バレエ、オペラ、演劇など）について、その歴史を踏まえつつ、ドラマ・音楽・美術・演出などの総合的な観点を身につける。 ○各舞台芸術ジャンルで古典ないしスタンダードなレパートリーと称される演目について、現代における上演の意義を考察する。
備考	

授業科目名	地域の多様性と活性化ー地域とアートワールドー
開講学期	前期
曜日時限	水曜日，7・8時限
担当教員（教員所属名）	朝山 奈津子（教育学部），出 佳奈子（教育学部），小杉 在良（非常勤講師）
必修／選択	必修
授業としての具体的到達目標	○地域が孕む様々な問題や地域が持つ様々な魅力を理解すること ○地域の問題や魅力を理解した上で，地域活性化の方策を考察すること
授業の概要	○弘前れんが倉庫美術館で開催中の蜷川実花展を題材に、写真撮影を通じて弘前市をアピールするアクションを企画します。 ○地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 ○「なんでもアート」に陥らないために，アートの概念を学びます。 ○弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。 ○以上により，アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。
備考	プログラムの2年目以降に受講してください。

授業科目名	キャリアデザインーアート・インターンシップー
開講学期	後期
曜日時限	水曜日，7・8時限
担当教員（教員所属名）	出 佳奈子（教育学部），朝山 奈津子（教育学部），小杉 在良（非常勤講師）
必修／選択	必修
授業としての具体的到達目標	○卒業後のキャリア形成において，必要となる様々な知識や技能，態度を理解・体得すること ○自分自身のキャリアについて，当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
授業の概要	○アートツーリズムを軸に、弘前と人をつなぐ方法について考えます。 ○青森のアートをめぐるツアープログラムを学生目線で開発します。 ○美術作品を発送源にランチメニューを開発します。 ○弘前コンベンション協会を通じて、ツアープログラムを発信します。 ○上記の学びを通して、とりわけ、旅行業・飲食業・観光関係・文化政策関係の就職活動における企業インターンシップにも役立つスキルを身につけます。
備考	プログラムの2年目以降に受講してください。